

中川運河の概要

中川運河は、愛知県名古屋市（中村区・中川区・港区）に位置し、名古屋駅の南にある「ささしまライブ24地区」と名古屋港を結ぶ全長約8.2kmの運河です。

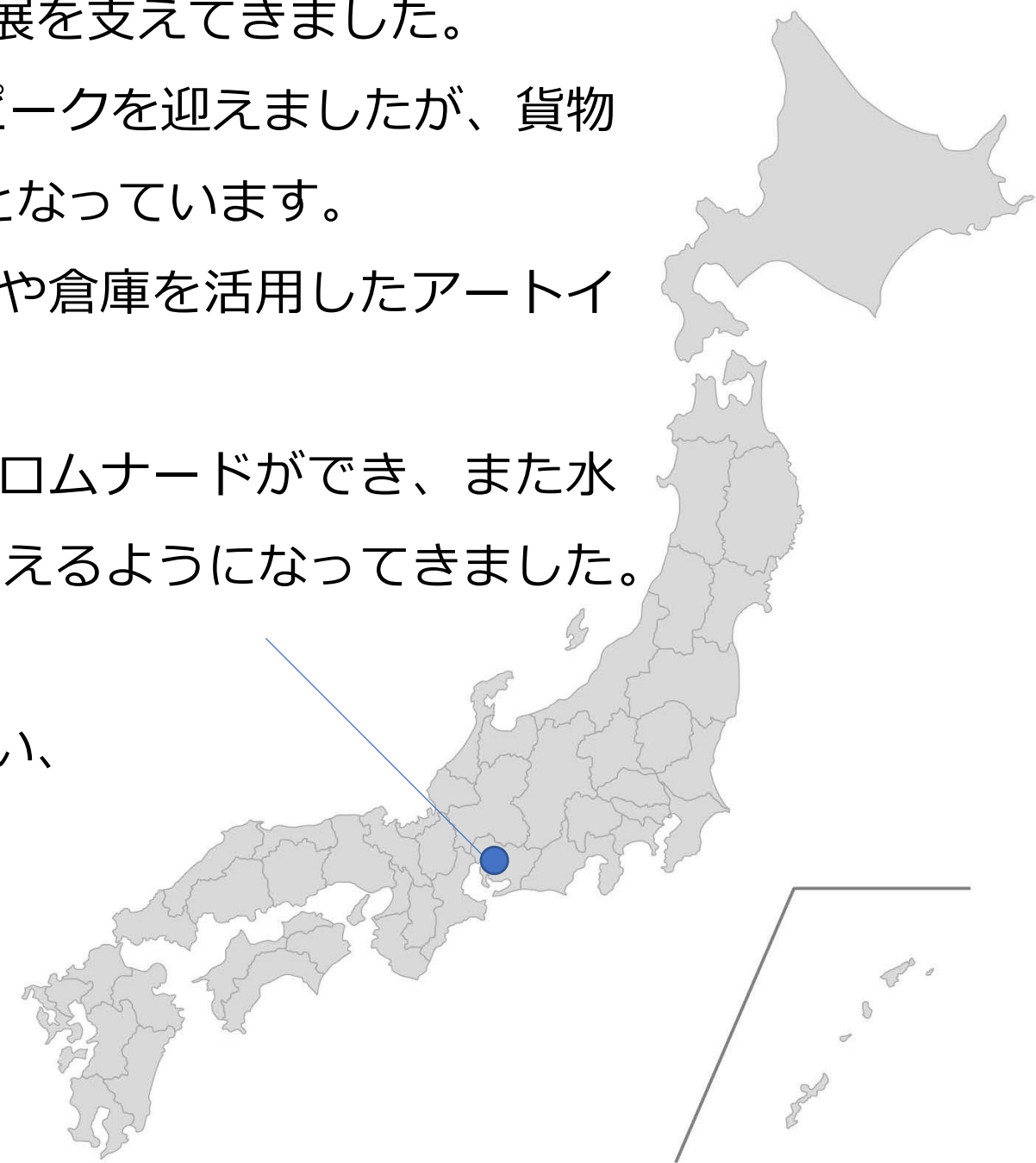
1926年（大正15年）の着工から4年後の1930年（昭和5年）に開通＜1932年（昭和7年）全線開通＞し、当時の新聞では「東洋一の大運河」と伝えられていました。工業都市として発展を図るために開削されたもので、水運物流の軸として名古屋の経済・産業の発展を支えてきました。

1964年（昭和39年）には7万5千隻を超える船が往来し、水運利用のピークを迎えましたが、貨物輸送がトラックへと変化したことなどから、現在は1日数隻の船の往来となっています。

一方で、レガッタなど市民の水上スポーツの場としての活用や、水辺や倉庫を活用したアートイベントでの活用がなされ、中川運河が着目されるようになりました。

現在はさらに、水辺にレストラン・カフェなどが立地したり緑地・プロムナードができ、また水上交通が運航するなど、一般の方でも運河・水辺に近づく親しんでもらえるようになってきました。

名古屋の都心にこれだけの広大な水面があることは強みです。
この世界運河会議を通して、国内外の多くの方に中川運河を知ってもらい、訪れてみてほしい、ファンになり関わってほしいという想いです。
そのために『中川運河再生計画』に基づき、「うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河へと再生」を目指し、様々な取り組みをすすめていきます。



中川運河の歴史

- 中川運河は、名古屋港と市街地を結ぶ堀川や新堀川などが、規模が小さく、潮の干満の影響で輸送に時間を要し、工業都市として発展を目指す上で十分でなかったため計画されました。

- 水位差のある堀川との通航を可能とする松重閘門を含め、1932年（昭和7年）に運河全線が供用開始し、堀川のバイパスとしても機能していました。

- また、運河を掘った土で水面兩岸を埋め立てて倉庫などを誘致したため、今でも多くの倉庫などが残っています。



中川運河通船門の様子（昭和の時代）



松重閘門周辺の様子（昭和の時代）



露橋水処理センター改築前の様子

中川運河の現在

①ARToC10（中川運河チャネルアート）



②中川運河宝探し in factory



「中川運河再生計画」におけるゾーン3区分



中川運河の歴史的役割を尊重しながら、広大な水面に新たな価値や役割を見出し、**うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河へと再生を目指して、『中川運河再生計画』を策定**し、様々な取り組みを行っています。

現在、「にぎわいゾーン」では飲食店などの立地やアートイベント、「モノづくり産業ゾーン」では工場の魅力の発見・発信、「レクリエーションゾーン」ではアクティビティ利用などがすすみ、また水上交通によって3つのゾーンをつないでいます。

中川運河再生計画＜2012年(平成24年)策定＞

再生理念

歴史をつなぎ、未来を創る運河
～名古屋を支えた水辺に新たな息吹を～

再生方針

- 1【交流・創造】人と人、人と運河をつなぎます
- 2【環境】水・緑・生き物に親しめる水辺空間を形成します
- 3【産業】モノづくりの未来を支え続けます
- 4【防災】まちの安全・安心を支え続けます

③ドラゴンボートレース大会



中川運河の現在

従来、中川運河沿岸用地は、港湾・物流関係に特化した土地利用に限定されていましたが、交流・創造の場となる魅力ある水辺空間の形成及び産業空間としてのさらなる価値向上を図るため、現在はレストラン・カフェなどの商業施設やギャラリー・アトリエなどの文化・芸術施設、新たなモノづくり産業など多様な産業の誘導をすすめています。近年、

「バーミキュラ ビレッジ」「珈琲元年中川本店」などが立地し、広大な水辺の開放感を感じながら過ごすことができます。



珈琲元年中川本店



バーミキュラビレッジ

中川運河の現在

・水・緑・生き物に親しめる水辺空間を形成するため、緑地やプロムナードの整備をすすめており、また、良好な水環境を創出するため、水質改善の取り組みをすすめています。

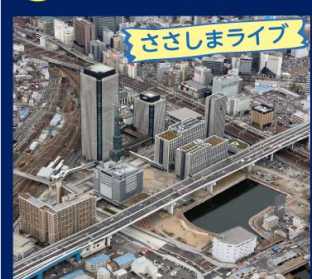
・堀止緑地や広見憩いの杜では普段、芝生広場で運河を眺めながら時間を過ごす人や走り回る子どもたちの様子が見受けられます。また、緑地はアートイベントでの活用やイベント時の観覧場所での活用など、徐々に活用がすすんでいます。



広見憩いの杜/改築後の露橋水処理センター



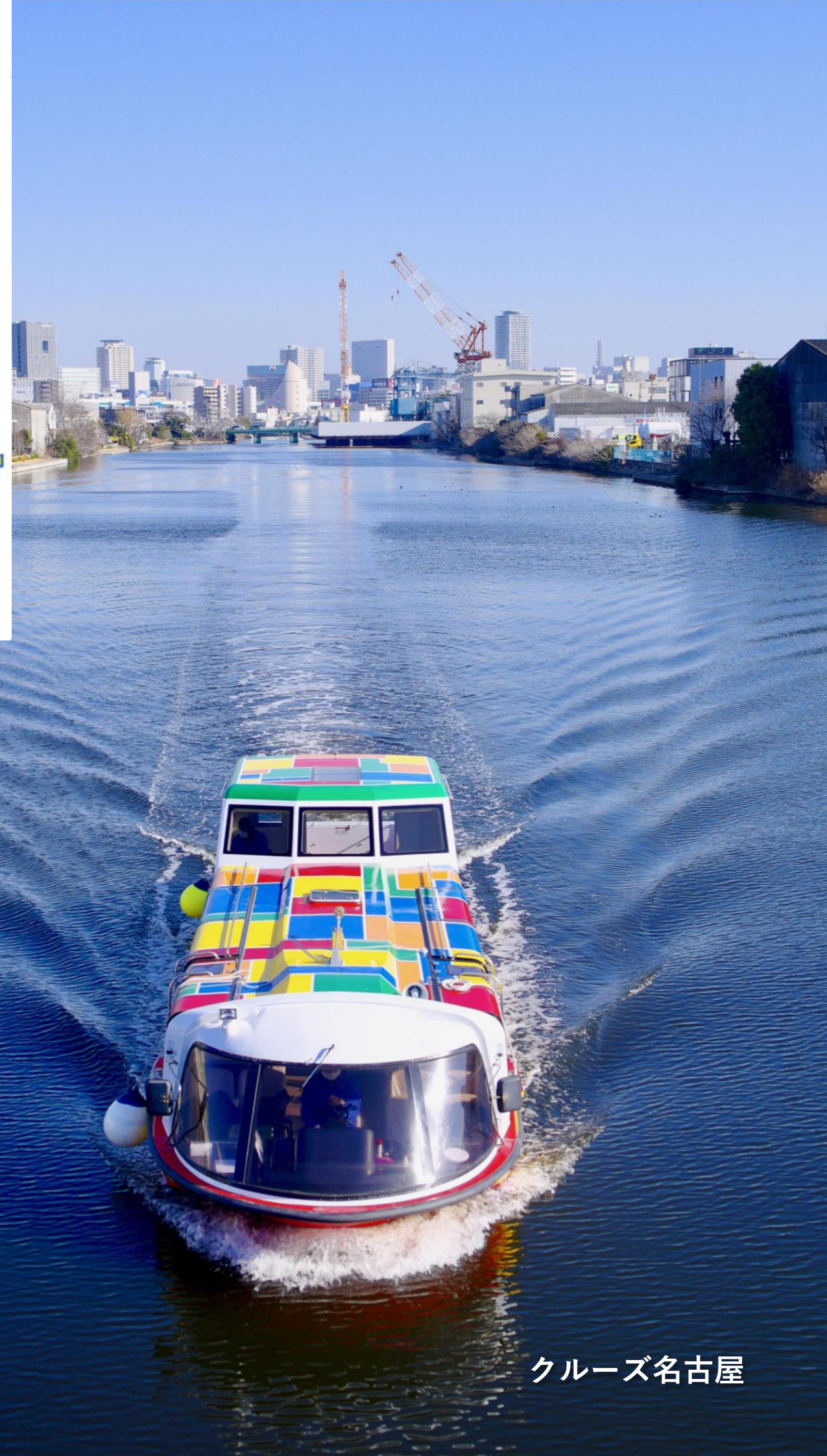
堀留緑地



中川運河の現在

ささしまライブ24地区と金城ふ頭を結ぶ「クルーズ名古屋」を
運航しています。非日常を味わいながら、名古屋駅高層ビル群へ
の眺望や生き物（魚・鳥）の様子を楽しめたり、舟運で栄えてい
た頃に思いを馳せながら、昭和の面影を残す倉庫群を眺められま
す。

乗船者からは「通船門の体験がアトラクションのようで楽しかった」などの声があり、また、乗船者とレストラン・カフェなどの利用者が手を振り合う様子は微笑ましい光景となっています。



クルーズ名古屋



中川運河まつり

ARToC10 撮影：佐藤隆典

小学校絵画コンクール

中川運河再生講座

中川運河の現在

水面や歴史資産を活用した、アートやSUP（スタンドアップパドルボード）、花火などが行われるなど、水辺活用がすすんでいます。また、愛着や誇りを醸成するため、中川運河を生涯学習や学校教育の教材として活用しており、中川運河に親しみを持つファンが増えています。



SUP

運河の未来像

- 交流・創造の場の創出や水・緑・生き物に親しめる水辺空間の形成に向け、商業施設や文化・芸術施設の誘導やプロムナードの整備をすすめます。
- にぎわい創出や運河の魅力向上につながる市民団体などの交流・創造活動の継続や拡充に対する支援を行います。
- 名古屋港・堀川などと連携した水上交通の充実やネットワーク化を図ります。
- 運河特有の味わいと魅力を高める景観を創出するため、歴史資産の保存・活用を目指します。
- モノづくりの未来を支える産業空間を形成するため、多様な産業の誘導をすすめます。
- 名古屋のまちの安全・安心を支え続けるために、運河の防災機能のさらなる強化を目指します。

